

海藻おしば協会：海藻観察 勝浦 2026年3月6日（金）

場所：千葉県中央博物館分館～海の博物館～

講師：菊地 則雄（海の博物館 主席上席研究員）

天気：曇

潮汐：干潮時間：12時13分 潮位（24cm）

参加者：13人

【スケジュール】

10時30分～

- ・教室で座学
- ・磯観察（11:00～12:30）
昼休憩～ノリ食べ比べ：アサクサノリはどれ?!～
- ・アサクサノリを観察しよう（顕微鏡観察）13:15～
- ・バックヤードツアー（奥野淳児先生）14:00～15:00
展示見学

16時 解散 →館山移動



【座学】

毎年参加している参加者もいるが、初参加の人に合せてお話し頂いた。藻類・海藻・海草について、海藻の多様な生活史など。今回印象だったのは、前回は「マリモ」の大きさについて菊地先生からクイズがあったが、昨年聞いている方もすっかり忘れゴルフボールサイズ?と答える方もいた。大きい個体では、想像以上の大きさになる事に再度驚く。阿寒湖の天然記念物のため、お土産で売っているのは阿寒湖の物だと法的に問題ですね?!など海藻の話は何度聞いても復習・確認ができありがたい。

【磯観察】

緑藻類エリアでは、同じように見える数種類の緑藻をじっくり観察しヒトエグサ・アナアオサなど見比べた。参加者全員、スタートのエリアだけでいろいろな海藻を夢中に観察し足取りが先に進まず、ようやく沖までたどり着くほど海藻観察を楽しんだ。

観察しながら、地域の海の話、他の地域で観察できたセンジュアマノリが突如見れた年あった事。ホンダワラ類の気胞や仮根部の解説・ヒジキ対ウミトラノオどちらが踏まれても強いかなど観察を楽しむ話が多く、今後違う場所での観察を楽しむ視野につながる機会になった。





ハナフノリ



ヒジキ・ウミトラノオ



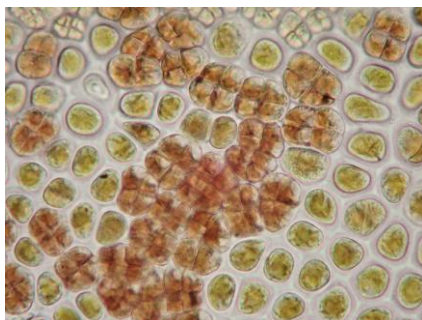
アオモグサ



顕微鏡で比較すると↑

【観察記録】 40種類以上観察できた

緑藻：ヒトエグサ・ヒラアオノリ・アナアオサ（顕微鏡観察での細胞の違い）・アオモグサ
褐藻：ハバノリ・カヤモノリ・シワノカワ・イシゲ・イロロ・ヨレモク・ノコギリモク・オオバモク・アラメ・ワカメ・ヘラヤハズ・シワヤハズ（硫酸を出す・採取時の注意）・ヒジキ・ウミトラノ（足で踏んだ時のウミトラノオVSヒジキどっちが強い?）・カゴメノリ・イソイワタケ・タマハハキモク（仮根部・気胞観察）・ウミウチワ（南方種）・イソモク（9月芽生え・気胞丸い）・フクロノリ・ネバリモ
紅藻：マルバアマノリ・ハナフノリ・イソダンツウ・マクサ・ヒラクサ・ウスカワカニノテ・ハリヒバ・カイノリ・オゴノリ（生食禁止危険）・サクラノリ・イワノカワ・ヒラムカデ・ハリガネ・ムカデノリ・カモガシラノリ・オキツノリ



【顕微鏡観察】

菊地先生が育てているアサクサノリの葉状体のオスとメス。糸状体を顕微鏡で観察。肉眼では見れない細胞レベルの観察に歓声が上がった。グループごと違いも交替で観察できた

【液浸標本を見てみよう】

奥野淳兒先生によるバックヤードツアーでは、博物館での環境教育活動についての考えや、標本を収蔵するときの大事なポイント、収蔵庫を実際見学することが出来た。小田原市郷土文化館での海藻押し葉標本整理をしている協会員もいるため、未来に価値のある状態で自然史資料を残し保管する事の大切さを知る機会になり今後の活動をする上で視野の広がる内容だった。

【勝浦海藻観察会が終わって】

前は、1人1台の顕微鏡観察であったが今回はグループに1台で対応していただいた。1人で没頭する時とは違い、それぞれ交替で観ながら交流できた事もよかった。ノリの食べ比べでは、「アサクサノリ」はどれでしょう？というお題に悩みながら美味しい体験ができた。今回は、菊地先生・奥野先生にも対応いただき、博物館での贅沢なプログラム内容で「海藻」を学ぶことが出来た。

恒例化している勝浦の観察会は、また平日に検討、季節を変えるのも面白いかもしれないと考えている。

（記録：高山 優美）

